

坂本貴啓(筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』 めぐり 研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしょうがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

♪秋の夕日に照る山もみじ 濃いも薄いも数ある中に 松を彩る楓や蔦は 山の麓の裾模様

(唱歌『紅葉』 作詞:高野辰之 作曲:岡野貞一)

表 1 北海道調査の『川と人』めぐり訪問先

衣し 北海垣師宜の『川と八』のくり訪问元			
日付	午前	午後	訪問先
10月20日(日)	札幌入り	豊平川(石狩川)	藻岩山 NPO法人水環境北海道
10月21日(月)	十勝川	十勝川	十勝開発建設部 エールセンター十勝 NPO法人帯広NPO28サポートセンター
10月21日(火)	釧路川	釧路川 網走川	釧路開発建設部 釧路湿原 釧路国際ウェットランドセンター
	網走川常呂川	湧別川 渚滑川	北見河川事務所 遠軽開発事務所
10月22日(木)	美瑛川, 永山新川 (石狩川)	天塩川	NPO法人グラウンドワーク西神楽 旭川河川事務所 川のふるさと交流館さらら 名寄河川事務所 NPO法人なよろ観光まちづくり協会
10月23日(金)	天塩川	留萌川	幌延河川事業所 留萌ダム管理所
10月23日(土)	石狩川	石狩川 羽田着	認定NPO法人カラカネイトトンボを守る会 篠路福移湿原



図1 札幌市内を流れる豊平川(手前)と石狩川(奥)

1. 北の大地へ(藻岩山展望台, NPO 法人水環境北海道)

2013年10月20日(日)~26日(土)にかけて北海道の市民団体調査をスタート.北海道はゼミ合宿で2011年に天塩川を周って以来.今回は新千歳空港からスタートし,道東,道央,道北をぐるっと周る.残りの水系は11月後半に調査を考えているので,2回に分けて北海道の川めぐりを紹介したい.本当は夏の一番青々しい時期に北海道を周りたかったが,





妹尾さんの著書(共著含む)

スケジュールの関係でこの時期に. 降り立った北の 大地はすっかり紅葉色になっていた.

北海道ということで、寒いだろうと厚着をして身構えてきたのだが、まだそうでもなく、札幌は心地 よいヒンヤリさが残る体感であった.

新千歳空港から札幌駅に向かい、駅を降りて向かった場所は藻岩山. モーリスカーというケーブルカーにより短時間で頂上に登ることができる(図1). 頂上から石狩川と豊平川の流れを望み、広大な北の大地の川に旅の安全と実りを祈願して川をめぐった.

2. 北の大地と川の外科医

藻岩山を訪問した後,NPO 法人水環境北海道の妹尾優二さんを訪ねた. 妹尾さんは一般社団法人流域生態研究所の所長もされており,多自然川づくりに大変明るい方である. 北海道のほとんどの川の改修や魚道の改築などの委員会には妹尾さんが参加されており,言ってみれば北の大地の川の外科医である. 日本の多自然川づくりの先駆者であり,様々な川に出向き,ちょっと岩の配置や流れを変えてあげたり,効果的な魚道を設置したりと数々の成果をあげられている. 妹尾さんが川に行かれるとすぐに川の中に入り,目につく岩を動かして魚が住みやすくしたりしている. 妹尾さん曰く,「川は自由になりたがっている. その声に耳を傾けてあげるのが私らの役目.」北の大地の川の外科医は今日もどこかの川で手術に励む.



図2 札内川とケショウヤナギの川風景



図3 クレーンでのサケの漁獲(千代田堰堤付近)

3. 十勝川の川風景とエールセンター

21日(2日目),帯広からスタート.帯広開発建設部を訪ねる.調査に関する打ち合わせをしたのちに十勝川を案内していただく.十勝川は川の街で,帯広川,札内川,音更川,士幌川などいくつかの川が合流している.流域面積は9,010 km²で基本高水流量も10,300m³/s となっていて大きな流域である.

十勝川水系の札内川は大きな河川敷が広がってお り,本州の中流域の1級河川の河川敷の2~3倍はあ る. そのため、サッカーコートや野球場などスポー ツ利用も大変盛んである。また札内川には固有種の ケショウヤナギが川沿いに生えていて, 枝振りもよ い木であるため、十勝独自の川風景を創り出してい る(図2). しかし、ケショウヤナギは礫河原のある 場所に自生するため、礫河原の保全が重要という. そのため上流の札内川ダムでは今年度から新たにダ ムの貯水量に余力のある際に環境流量としてフラッ シュ放流を試験的に行っており、河川内の陸地化を 防止し, 礫河原保全を試みている. 帯広開発建設部 の K さんは十勝の出身で、昔からこの風景に馴染ん でこられたそうで、K さん曰く、「札内川のケショウ ヤナギは冬の雪化粧した姿や夏のみずみずしさも綺 麗なんですよ.季節を変えてまた来てみて下さい.」



図4 魚道観察室から見るサケの遡上の様子



図5 エールセンター十勝

サケも多く遡上し、千代田堰堤(堰堤という名称だが砂防施設ではなく取水堰)付近の魚道では、十勝川漁協がクレーンで大きな籠を沈め、一定時間ごとに引揚げ、産卵・養殖用の個体を採っていた(図3).

僕の故郷の遠賀川はサケの遡る南限の川と言われているが、遡っても数匹程度だが、ここでは目の前を勢いよくサケが駆け上がり、網にもたくさんの個体が収まっている。こんな大きな魚が次々川に遡ってくる北の川はこの時期とても賑やかになる。なお、サケの遡上については、千代田新水路の分流堰にある『魚道観察室とどろーど』にて川の断面をガラス越しに見ることができ、サケの遡上を間近で確認することができる。

最後にエールセンター十勝を訪ねた(図5). 札内川と帯広川の合流地点付近に建っている. ここを拠点として活動している帯広 NP028 サポートセンターの千葉利光さんにお会いし、活動の特徴や設立の経緯などをお聞きした(内容は割愛).

千葉さんのような素晴らしい指導者と整った水辺の拠点があることは十勝の子供達にとっても大変幸せなことだ. 事実, 屋上には多くの子供達がここに遊びに来ていた. 十勝川, 来年の夏に川風景を楽しみにゆっくり訪問したい.



図6 釧路湿原内を蛇行して流れる釧路川

4. 釧路湿原と人々の挑戦(釧路開発建設部, 釧路湿原, 釧路国際ウェットランドセンター)

22日(3日目),釧路からスタート.釧路開発建設部を訪ねる.釧路川に関する調査項目の打ち合わせ後に釧路湿原・釧路川(図6)を案内していただく、釧路川は流域面積2,510km²,流路延長154kmの河川である.国内初のラムサール条約登録湿地として知られ,人の手付かずの湿原地帯が広がっており、その中を釧路川が流れている.基本高水流量は1,200km²と低く設定されているのは、年平均降水量が約1,000~1,200mmと少ないことはもちろんだが、上流に屈斜路湖という天然のダム、下流に釧路湿原という天然の遊水地があることが要因とも推察できる.

そんな釧路川は1977年頃から川のショートカット 化が進行し、蛇行部が減少した.これにより、洪水 は早く流れるようになったが、河床低下が起こり、 河川へ流れ込む土砂量が増加し、湿原に土砂が多く 流入するようになり、湿原植生が変化し、湿原の陸 地化が徐々に起こっており、問題になっている.

この現状を受けて、2003年頃から自然再生事業が はじまる. 2006 年頃から旧川復元事業が展開されて いる. 排水路と化した直線河道を埋戻し, 三日月湖 として残っていた旧川につなぎ直し, 再び蛇行を取 戻した. 今でこそ各地で展開されている自然再生事 業だが、当時として先進事例だったことは間違いな い. 河川管理者自らが行った事業に対し、再評価を 行い、課題のある川づくりに対しては、例え戻る方 向であっても大きな決断で舵を切る姿勢は素晴らし いと思う. また、釧路川には釧路国際ウェットラン ドセンターという釧路市役所の環境保全課の職員の 方々が事務局を務める任意団体があり、お話しを伺 った. 旧川復元後のモニタリングを土砂, 植物, 水 生生物の視点から市民と一緒に行っている. 釧路市 はじめ周辺市町村の自治体も「釧路湿原は何よりの 地域財産」と認識されており、地域の人々の関心も 高い. 釧路川を扱う河川管理者、釧路湿原に関心を 喚起する市町村、釧路湿原に誇りをもつ市民、この 三者全てには釧路湿原への愛着が深く感じられる.



図7 網走川

5. 網走川(北見河川事務所)

22日夕方に列車で釧路湿原内を抜け網走へ. 釧路湿原地帯を列車が抜けている時には広大な湿原に沈む夕日が美しく,列車移動の醍醐味を感じる瞬間であった.列車に揺られること2時間半.網走に到着. あたりはすっかり真っ暗. 駅には網走刑務所のモニュメントが置いてある. 宿にチェックイン後,まちに夕食を食べに行くのに,網走川沿いを散歩.川沿いは歩きやすい歩道や階段,街灯などが設置されていて,散歩するにはとてもよい空間. できるだけ川に行った時には現地の川の水に触れるようにしているため,網走川の流れにそっと手をつけてみた.河口付近ということもあってかそんなに冷たくない. 道東の川の感触をしばし楽しんだ.

23日(4日目),網走からスタート.網走市自体には立ち寄る施設等は予定になかったので、宿周辺から朝の網走川を見て写真を一枚.「網走川」と書かれた看板の鮭と網走川がいい構図に収まった.

網走川は流域面積 1,380 km², 流路延長 115 km, 基本高水流量設定 1,200m³/s の河川である. 河口から 7 km地点に網走湖がある(湖面積 32.3 km 2,周囲長 42km, 汽水湖). もともとは淡水湖であったが,近年の海水流入量の変化により,湖の下層にある無酸素状態の塩水層が上昇傾向にあり,湖沼環境に影響をもたらしている. これにおける対策として,『網走湖塩淡水境界層制御実験施設』を設置し,湖沼環境の改善を図っているそうだ.

河口付近に湖がある河川は青森県の高瀬川や島根 県の斐伊川にもあったが、珍しい河川環境であると 同時に環境の変化が大きく、注視する必要がある川 と言えるだろう.



図8 吊り橋と無加川(吊り橋の向こうは中の島)

6. 常呂川と川の内科医(北見河川事務所)

網走を後にし、北見市へ、北見市には常呂川が流れている、網走川と常呂川を管理している北見河川事務所へ、打ち合わせを済ませた後、同事務所のSさんから河川生態系やモニタリングの心構えのレクチャーをしていただいた。

- ① なぜ環境調査は必要なのか?
 - ⇒目標とした望ましい環境(結果)を評価するため
- ② 観測の注意点
- ⇒本来は「観察側定」という意味、対象が未知の場合, 重要なのは観察、
- ③ 環境と生物の関係を把握するには?
- ⇒生息種だけ把握してもダメ、その種が利用している場の 利用関係の把握重要(営巣場、採餌場、移動経路など)
- ④ 見た目の豊かさに騙されてはいけない、
- ⇒単純な水路でも樋門があることで付着生物や底生生 物が集まる、それを餌とする生物相が集まる。

と、日常的に目的を見失いがちのモニタリングの 目的やモデリングの意義をしっかり整理されていて、 聞いていて大変新鮮なレクチャーだった.

また、その後付近の常呂川を案内していただくことに、常呂川と支流の無加川の合流点にある中の島公園(図8)に、常呂川は流域面積1,930 km²、流路延長120 km,基本高水流量1,900m³/sの河川である、この川では現在大腸菌発生が問題となっており、中流域以降では水質的に注意が必要な状態であるという、原因は未発酵な家畜糞尿などの肥料が河川に流出すること、一見見た目では分からない川の水質が課題となっている。

また、ヘム鉄と森にある有機体が結合して川に流れることで、サケの生育に必要な栄養源が海へ供給される。その鉄を森に運んでくるものこそがサケであり、サケが上流域の河原で亡骸をさらし、クマなどの動物が森の中に運ぶことに重要な意味がある。目に見えない川の中での現象を注意深く診断するSさんは川の外科医ならぬ、川の内科医だ。川にとって外科的治療も重要だが、内科的治療はもっと重要かもしれない。



図9 四層コントラスト風景の車窓



図10 夕暮れの湧別川

7. 遠軽と湧別川(遠軽開発事務所)

北見を後にし、遠軽へ、遠軽へ向かう途中の列車の中からは秋晴れの澄み渡った空、色づいた山、山の麓に残る緑、先週一時的に降った雪と青・赤・緑・白の4層のコントラストが美しい、遠軽開発事務所へ、最初誤って、遠軽にある庁舎の方へ行ってしまうアクシデントに見舞われるものの、事務所の方に湧別庁舎の方を案内していただく、その途中、湧別川を見た、礫河原がある川の夕暮れ風景は最高に美しかった。

遠軽開発事務所管轄の湧別川 (流域面積 1, 480km², 流路延長 87 km, 基本高水流量 1,800m³/s) と渚滑川 (流域面積 1,240km², 流路延長 84 km, 基本高水流量 1,200m³/s) について管轄している。面白いことに湧別川 (河口:遠軽町),渚滑川 (河口:紋別市) の河口付近は海岸線に並行する形で海に流出しており、砂州の発達が顕著である (河口詳細の写真を見たい人は河川環境管理財団編:『日本の河口』(※WEB 閲覧可)がおすすめ。)湧別川には、湧別川アウトドアクラブ YU-PAL があり、対応していただいた事務所の副所長さんも参加されているそうだ。

今回時間が無くて渚滑川には立ち寄る事ができなかったが、また改めて時間を取って訪問したい.



図11 美瑛川河川敷のグラウンドゴルフ場



図12 石狩川本川への放水路の永山新川

8. 西神楽の美瑛川 (NPO 法人グラウンドワーク西神楽、旭川河川事務所)

24日(5日目)は旭川市からスタート.(友人の招きで旭川市は一度訪問し、講演させてもらう機会があった.)朝一で西神楽へ.NPO法人グラウンドワーク西神楽の事務局長の成田さんにお会いする.成田さんらは西神楽地区のまちづくりや川づくりを自らの手で行っており、全国のグランドワーク活動の先駆けをつくった先進事例である.

この会で自主事業として、美瑛川河川敷のグラウンドゴルフ場の運営がある。財団法人等が河川占有許可を取って行っている事例はみたことがあるが、NPO法人が占有事業をやっているのは初めて聞いた。様々な法律的対応が必要になってくる中で、元々事務官で河川に詳しい成田さんの存在は会にとって大変大きいだろう。美瑛川の河川敷にある「西神楽さと川ゴルフ場」(図11)に連れて行ってもらった。河川敷のグラウンドゴルフ場には多くのゴルフ客でにぎわっていた。すぐ脇には美瑛川が流れ、心身の健康増進には最高の場所だ。

また旭川河川事務所を訪問した後には分水路の永山新川(図12)を見学させてもらったが、美瑛川といい永山新川といい美しい場所が旭川には多い.



図13 曙橋から天塩川を望む

9. 再びの最北の大河へ(名寄河川事務所, NPO 法人なよろ観光まちづくり協会)

旭川を後にし、名寄へ向けて出発. 列車で塩狩峠を越え、天塩川水系へと入る. 名寄に到着し、名寄河川事務所を訪ねる. 2011年にゼミ合宿で天塩川を訪問した際にはこの事務所の方に天塩川の事業についてご説明いただいたことがあった.

名寄河川事務所で調査項目に関する打ち合わせをしている時に対応して下さった副所長さんがおもしろいものを提供してくれた。「北海道には川の時刻表というものがあるんです。ある国交省の職員で電車が好きな方がおりましてね、電車で川を渡る時、いつどんな川を渡っているか分かると車中の旅がもっと楽しくなるでしょと。」このアイデアは本当に面にいたがの多い関東をはじめとする大都市圏ではありすぎて一枚の紙には書きされないかもしれない。電車の本数の少ない地域ではおすすめだと思う。『北海道川の時刻表』は以下のページからダウンロードできる。

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_kasen/kawa_jikoku/

名寄河川事務所を訪問した後に、曙橋まで行き、 天塩川を眺める。前に天塩川を眺めた場所とは別の 場所だったが、流れをみていると2年前にみた広大 な原野を流れる川を思い出した。

その後,NPO 法人なよろ観光まちづくり協会の野間 井さんを訪ねる. 実は野間井さんらは NPO 法人天塩 川リバーネット21の事務局をしていたが,7月に会が解散してしまった. 長い天塩川を上下流に渡ってつなぐ活動で,カヌー大会や一斉清掃など流域市町村を広く巻き込みながら様々な活動を展開していた. それだけになくなってしまったことは大変寂しい. 理由としては昨今の社会情勢の煽りを受け,活動資金が毎年減少傾向だったことと,中流域の市町村などの参加が難しくなってきたなど,人的,金銭的両方の影響があったようだ. 大変素晴らしい活動だっただけにいつかまた復活してほしい.



図14 2011年ゼミ合宿時の天塩川河口



図15 川口遺跡風景林からの天塩川の河口(2011)

10. 最北の河川管理者と天塩川(幌延河川事業所, NPO 法人天塩川を清流にする会)

名寄を出て、夜のうちに特急で幌延へ.列車は天塩川に沿って走っているが、外は明かりが無くて全く川が見えない.(本来なら昼間に美深町、音威子府村、中川町付近などの天塩川を堪能したかったが、スケジュール的に致し方ない.)特急を使っても数時間乗車していなかればならないことからもいかに長いかを実感する.

25日朝, 幌延河川事業所の方とお会いする (天塩川は大河川であるため, 下流部はこの事業所が管理している). その後, 天塩川も案内していただいた.

天塩川は流域面積 5,590 km² (北海道 3 位),流路延長 256 km (北海道 2 位,全国 4 位),基本高水流量 6,400m³/sの大河川である.北にのぼって流れることから,「塑北の大河」などと呼ばれることもある.2011年9月のゼミ合宿では,天塩川上流域から河口まで4日間かけて旅して,河口の防波堤の上にみんなで寝転び,荒々しい天塩川の河口を眺めた記憶がある(図 1 4,図 1 5).そういう意味でもとても思い入れのある川だ.この事業所にお勤めの I さんは最北の大河の河川管理者ということになる.冬になると天塩川に吹く風は冷たく,川を巡視する河川管



図16 天塩川河川公園



図17 天塩川を清流にする会のヒアリング

理者にも容赦なく襲いかかる.

この日は雨が降っていて、雨ともに河口から冷たい風が吹き付けて冷たかった。天塩川河口の天塩町付近は河川公園(図16)になっており、ダウン・ザ・テシオッペというカヌー大会の時にはここがゴール地点になったりもする。また、天塩町はフットパスコースを策定しており、天塩川に沿ったコースができている(道の駅→ロクシナイ川→鏡沼海浜公園→キャンプ場→天塩港→天塩川河川公園:

http://rumoifan.net/taiken/p_02/12te_footpath_MAP.pdf).

I さん曰く,晴れた日には天塩川の河口から夕日に 染まる利尻富士が見え,最高の眺望を味わえるそう だ(これは夏にまたくるしかない!).また,河口付 近には川沿いに続く川口遺跡風景林があり,オホー ツク文化を知ることができる.2回目の再訪も大変充 実したものとなった.

その後, 天塩町役場にて, NPO 法人天塩川を清流にする会の方々(図17)にお会いした. 朝から会員の皆さんが集まって下さり, 私の調査に快くご協力いただいた. NPO 法人リバーネット 21 が解散した今, 天塩川を団体の名に掲げた市民団体はここくらいしかないのではなかろうか. どうか天塩川のように長く活動も続いていってほしい.



図18 留萌川



図19 城壁のような留萌ダム

11. 城壁のごとくそびえたつ留萌ダム(留萌ダム管理支所,るもいエコ村)

天塩川を後にし、留萌へ、留萌川(図18)を遡り、留萌ダム管理支所へ、ダム管理者の方にダムを案内していただく、留萌ダムは堤高41.2m、堤頂長440m、総貯水容量23,300千㎡の多目的なロックフィルダムである、2009年に完成したばかりの新しいダムだ、治水と水道用水と維持用水の3目的のダムであるが、現在は治水と維持用水としてのみの運用になっている、留萌市の上水道事業がまだ追いついておらず、水道用水としてのダムの需要は今現在発生していない。

ダムの堤体が見えてきた瞬間は堤体の低さとのっぺりと続く堤頂長と黒いロックであることからまるで城の石垣のようで、ダムと意識してこなければ気づかないちょっと変わったダムだ(図19).このダムは建設当初の水源地ビジョン作成時の委員会から発展させたかたちで「るもいエコ村」を発足.ダム管理所で「るもいエコ村」村長の中尾淳さんにお話しを伺った.活動としてユニークなのが冬の活動.ダムの堤体に積もった雪壁を利用した「キャンドルナイト」や「かんじきダム湖歩き」などがある.雪国ならではのダムを利用したイベントで、これが名物になるとおもしろそうだ.



図20 土砂搬入により消失の進む篠路福移湿原

12. 消えゆく石狩川の湿原、残された湿原の女神を守れ! (認定 NPO 法人カラカネイトトンボを守る会~あいあい自然ネットワーク~)

26日(7日目), 札幌まで戻ってきた. 最終日は認定 NPO 法人カラカネイトトンボを守る会事務局 長の綿路昌史さんにお会いした(高校の生物の先生 でもあるため私は綿路先生と呼んでいる.)

綿路先生とは高校時代からの川仲間で、世界子ど も水フォーラムや川の日ワークショップ等で毎年東 京でお会いしていた. 年賀状のやりとりの中でも「札 幌に遊びにおいで!」といつも書いていただいてい て、念願叶って伺うことができた、綿路先生が高校 の理科研究部の研究活動を指導していたことがきっ かけで, 高校生の研究活動の成果を地域の人にも知 ってもらうことをきっかけにはじまる. 教育の上で もこの自然の素晴らしさは子供達に伝えていかなく てはならないし、同時に子供達が故郷と慕える自然 を残していかなければならない. このあいの里地区 周辺には石狩川流域で唯一残された湿原, 篠路福移 湿原がある(石狩湿原の99.8%は消失してしま ったという). そこに棲むカラカネイトトンボという 固有種で、学名は Nehalennia speciosa, 「ゲルマン (ベ ルギー)の女神」という名前. そこで, 湿原にひそ かに残る女神さまをお守りしようと団体名を「カラ カネイトトンボを守る会」と命名、綿路先生の湿原 への愛着と教育者としての想いがこの会を生んだ.

しかしながら現在2001年頃からこの湿原は業者が自身の所有権のない土地にも関わらず土砂埋め立てを行っており、篠路福移湿原は消失の恐れがある(図20).業者と話し合いを続けたが平行線で、緊急的に会はナショナルトラスト運動を展開し重要度の高い箇所から土地を買い、湿原消失を食い止めようとしているが焼石に水だ、「下世話かもしれないが会にお金が欲しい、お金があれば少しでも多く土地を買える.」そんな篠路福移湿原を巡って会と業者は現在、札幌地方裁判所にて裁判中で2013年12月5日に判決が下される。なお、本会への寄付は会HPより.

(http://www7b.biglobe.ne.jp/~karakane/)

13. おわりに

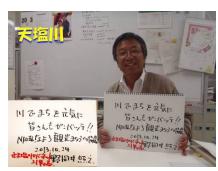
今回札幌を起点に北海道の道東、道央、道北をぐるりと一周したが、北の大地のスケールに驚かされることばかりであった。逆に意外だったのは流域面積や流路延長の割に道東の川の基本高水流量の設定が小さかったこと(本州では流域面積1,000 km² あれば基本高水流量設定が4,000m³/s 近くになっている。)。降水量の違いは言うまでもないが土地に余力があるのも然りだろう。基本高水設定が小さいと当然だが、堤防も低い。なので、川との距離はより近く感じられた。次回は小樽、函館、苫小牧、岩見沢、滝川などを流れる川を11月に周る予定である。雪化粧の川が見られるのではないかとちょっと期待したい。最後に今回の調査行程を周るに当たり、ヒアリングアポイント等の調整にご協力いただいた国土交通省本省の鈴木高さん、北海道開発局の松原寛さんに感謝申し上げるとともに、各現場の川事情について熱意と愛着をもって語って下さった河川管理者のみなさま、市民団体のみなさまに感謝申し上げる。そして、今回の旅程を一緒にまわってくれた『川と人』ゼミの斎藤裕佑君、鴨志田穂高君ありがとう。





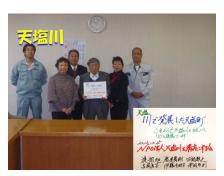












- 滞在日数7日間
- · 北海道移動距離:約1,100km
- ・ダムカード獲得枚数:1枚
- ・訪ねた河川事務所・開発建設部:8機関
- ・名刺交換した人:33名
- ・旅をサポートしてくれた人:2名
- ・出会った行政の人:12名
- ・出会った市民団体数:8団体
- ・旅で出会った人:約50名











【筆者について】

坂本 貴啓 (さかもと たかあき)

1987 年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC(青少年博物学会)、大学時代ではJOC(Joint of College)を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りはプールで潜水すること。